

多様な価値観に触れ、自らの視野を広げる

2019年度（令和元年度）

北京教育交流訪問報告書

教育交流推進事業の目的

中・高校生及び教職員の教育交流を行うことにより、生徒が多様な価値観に気付き、自身の視野を広げたり、教職員の資質能力の向上を図り、日々の授業改善に活かしたりする。



日程 2019年（令和元年）12月23日（月）～27日（金） 4泊5日
訪問団 中高校生 20名・教職員 5名・事務局等 5名
訪問先 首都師範大学第一附属中学 中央音楽学院 首都体育学院
北京動物園 王府井 天安門広場 故宮博物院 万里の長城 他



訪問の行程



23日(月)	24日(火)	25日(水)	26日(木)	27日(金)
出発式・福山発 広島空港発 北京首都国際空港着 レセプション	首都師範大学第一 附属中学 北京動物園	中央音楽学院 首都体育学院 王府井	天安門広場 故宮博物院 万里の長城	北京首都国際空港発 広島空港着 福山着・解散式

教育交流

国を越えて同年代の生徒と交流したり、専門性の高い大学で自分の夢を追う学生と出会ったりしました。

首都師範大学第一附属中学

それぞれが自分の目標を持ち、1日を通して積極的に交流しました。

授業参加



北京教育交流を通して、私には夢ができました。それは、いつか英語を聞いて会話することです。今では、毎日英語の勉強を自主的に行うようになりました。学校の授業では、周りが変わらなくても私だけでも変わってやろうと、苦手な授業にもあきらめずに挑戦しています。そして、来年は英語圏の国にショートステイをして、新たに挑戦したいと考えています。(中1)



英語が多少話せなくても、体を動かすことでコミュニケーションがとれると思っていました。体育の授業では、率先して体を動かして、北京の生徒と積極的に関わりました。表情や動作で思いを表した方が、言葉よりも伝わりやすいこともあることに気付きました。(中1)

学校見学



「福」という字は、分解すると全て縁起の良い字から成り立っているという話にとっても興味が湧きました。私は、小さな頃から書道を習っています。中国は書の本場なので、書の話を知ることができて大変貴重な場となりました。

私は、今まで自分のためだけに書を書き続けてきました。一生懸命練習して、自分が納得のいく賞をとれたら満足していました。しかし、北京を訪れたことでその思いに変化が生まれました。世界中の人々に、自分が書いた作品にこめた思いや、書道の素晴らしさを伝えられるような人間になりたいと思いました。北京から帰ってからは、誰かの心に届いてほしいという思いで作品を書いています。自分にしかできない表現の仕方で伝えていきたいです（高1）

意見交流



交流して、分かったことは、英語を話すことに対する意識の違いです。私は英語の授業で発表する際、英語を上手く発音できないことが「恥ずかしい」と思っていました。でも、北京の生徒は英語で発表することは、チャンスだと捉えていました。今まで語順や文法通りに話さなければと思いつぎ、苦手意識を持っていたけれど、相手に伝えようとするのが何より大切だと気付かされました。（高1）



はじめは、相手が話している内容をあまり理解できず、悔しい思いをしましたが、互いに身振り手振りやスマートフォンを使って少し会話をすることができました。将来についての話をすることで、北京の生徒は、「外交官になりたい。」と言っていました。将来やりたいことのために、今の勉強にも意欲的に取り組む姿勢が印象的でした。私にも、保育士になる夢があります。夢を叶えるために今、何ができるのかを考え、人との接し方を意識して行動するようになりました。（中2）

中央音楽学院

伝統的な楽器等が展示されている部屋での体験や、世界中から集めた楽譜が収められている部屋の見学、日本人留学生との交流などをしました。



たくさんの古い楽器や楽譜があり、中国の文化の深さを知ることができました。2000年前の楽器を演奏させてもらい、貴重な体験になりました。(中2)

僕が、北京教育交流に参加した理由の一つは、外国ではどのように音楽を学んでいるかを知って、自分の演奏に役立てたかったからです。中央音楽学院では、探していた楽譜を見せていただいたり、日本人の留学生にお会いして話をしたりすることができました。二胡という楽器を学ぶために仕事を辞めて留学に来たと聞き、自分の将来について、今やれることは何なのかを改めて考えることができました。(中2)



首都体育学院

オリンピック記念館や学生が実際に行っている授業を見学しました。

僕は、生徒代表挨拶をしました。直接英語で自分の思いを伝えたいと考え、出発前から原稿を準備しました。その中で「僕たちはスポーツを通じて交流したい」と述べました。僕は、「たとえ国籍や民族が違ったとしてもスポーツを通じてすべての人はつながることができる」と思っています。これはオリンピックの理念とも重なります。2020年の次は2022年の北京の冬季オリンピックです。僕たち若い世代が中心となってオリンピックを盛り上げたいです。(中2)



ここに通う学生は、体育教師を目指していると聞きました。案内していただいた先生が英語で話しているのを聞き、文武両道を目指して頑張ることが大切だと感じました。(中2)

異文化体験

中国が誇る世界遺産を自分の足で歩いたり、食事や買い物をして、異国の歴史や文化に触れました。

世界遺産

教科書やテレビなどで見たことがある歴史的建造物を直接訪れ、規模の大きさや歴史の長さを実感しました。

万里の長城



「今の技術で、これほどのスケールの城を造れるのか」と考えてしまうほどの広大さと強さを感じながら登り、当時の人はどうやって上り下りしていたのか不思議に思いました。どうやって造ったのか、さらに疑問が湧いてきました。教科書を見るだけではわかりませんでした。とにかく「圧倒！」という感じでした。(高1)

天安門広場・故宮博物院



故宮博物院には、10m以上もある一枚岩で作られた彫刻があり、とても驚きました。ガイドさんに聞くと、この岩は遠くの山から切り出され、氷の上を滑らせて運ばれてきたことがわかりました。事前に調べてわかることもありましたが、実際に行ってみて、さらに興味が湧きました。(中1)

北京市内散策

北京の観光地やレストランを訪れて、中国文化に触れました。

王府井



北京動物園



食事



北京は、私の想像をはるかに超え、大きくて、にぎやかな街でした。「歴史」と「最先端」が共存した街だと感じました。連なる高層ビルや何車線もある道路が入り交じる街中にポツンとある明の時代のお城はそこだけ歴史が切り取られたような感覚でした。(中3)

学習会・報告会

訪問前に2回、訪問後に1回の学習会を行いました。また、報告会を行い、北京教育交流を通じた学びを深めました。

学習会・ミーティング

学習会では、教育交流や報告会について話し合い、準備に取り組みました。訪問中のミーティングでは、北京を訪れて感じたことを出し合い、帰国後にどのように伝えたいかを考えました。



学校での様子

教育交流で刺激を受けた生徒は、各自の学校に戻り、訪問前とは異なる気持ちで、日々の生活を送っています。

私の通っている高校では、先生の話静静地に聞いて、黙々と進む授業が当たり前でした。今回の経験でそれを変えたいと思いました。今は、私が先生の言ったことに対して積極的に反応したり、質問したりすることで、段々クラスの雰囲気が変わってきました。(高1)



3学期になり、「一步前進」という目標をたて、学級委員に立候補しました。きっかけは、北京で出会った生徒が、私に日本語で話しかけてくれたことです。その姿を見て、私は、自分も何かを諦めずに挑戦してみようと考え、行動に移しました。心の底から輝く笑顔ですごせるよう、頑張ります。(中1)



報告会(1)

訪問後、生徒は、各自の学校や校区内の小学校において、北京教育交流の成果を報告しました。



初めて海外に出て分かったことがあります。それは、日本で当たり前とされていることは、海外では当たり前ではないことです。日本では統一性を重んじることが多いですが、私の見た北京の学校では、個性が重んじられていました。大切なことは、どちらかが優れているということではなく、相手を理解し認めることです。僕は、将来海外で医師として働きたいです。そのために、これからもっと世界に出てコミュニケーションを図り、様々な価値観に触れ、より多くのものを吸収したいです。(中2)

報告会(2)

2月22日(土)、福山市役所大会議室において、「第12回北京教育交流訪問団報告会」を行いました。教育交流を通しての学びを全体報告及びポスターセッションで伝えました。

生徒報告



今回参加して、英語力をつけたいと強く思いました。また、世界のことを情報だけではなく、自分で見ることで、そして自分から行動することの大切さも学びました。私の将来の夢はJICAの仕事に携わることです。そのために、帰国後、毎日英語の勉強をしています。そして、思ったことはその場ですぐ行動するようになりました。(中1)

私は、現地を離れる際に、5日間お世話になったバスの運転手の方に中国語で挨拶をしました。今までなら、話すことは無理だと諦めたかもしれないけど、今回は、もしかしたらできるかもしれないと思い、チャレンジしました。そう思ったのも、北京で過ごした5日間のおかげだと思いました。(中3)



教職員報告

日本の生徒は、琵琶や中国琴を演奏し、福山と世界がつながっていることを実感できたようです。福山で学んだことが世界でも通じるという体験になっているようでした。このような経験こそが、生徒自身の目を世界に向けるチャンスとなり、生徒の未来へ向かうエネルギーになります。これは、どの授業にも通じる場所があります。学校で学んだことが、世界に出ても子ども自身の力となるように教師の役割や授業について考えたいです。(中学校教諭)

参加した生徒が変わり始めていると感じたのは、2日目の体育の授業を参観した時でした。それまであまり前に出ることのなかったある生徒が、中国の学生に近づき英語で話しかけました。中国の学生に年齢や好きなスポーツを尋ねる中で、自分のことについても伝えたいという思いが膨らんできたのだと感じました。はじめは恥ずかしそうに話をしていましたが、どんどん前のめりになって、身振り手振りを交えながら話をする姿は、学習会からは予想ができないような姿でした。子どもたちは、自分のことを知ってほしい、相手のことを知りたいという思いを元々持っています。その思いを、今回の教育交流訪問で引き出すことができ、それが変容につながったと考えました。(小学校教諭)

教育交流訪問団派遣者数

(人)

年度	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	合計
生徒	20	22	20	20	19	20	20	20	20	19	20	20	240
教職員	10	12	10	8	8	9	6	5	5	5	5	5	88

北京市教育交流推進事業の経過



2007年（平成19年）

- 5月 広島大学北京研究センター長佐藤利行教授を通じて、北京市教育委員会劉利民主任から教育交流の提案を受ける。
- 8月 福山市教育委員会担当者が、北京市教育委員会を訪問し、意見交流及び情報収集を行う。
- 10月 羽田皓市長、小丸法之渋谷育英会理事長、蔵本久市議会議長、高橋和男教育長他7名が訪中
福山市教育委員会と北京市教育委員会との教育交流等に関する覚書締結
◇帰国後の市長会見骨子◇

○本市と北京市の中学生・高校生や教職員の交流を進めていく。
○次代を担う若者が隣国との交流をとおして、国際的視野や国際感覚を身に付け、国際社会の中でたくましく生きる力を付けることを期待する。



2008年（平成20年）

- 4月 北京市教育交流事業【中・高校生派遣】【教職員派遣】募集要項策定
北京市訪問団派遣費補助基準策定
- 7月 現代の中国画と日本画展 ふくやま美術館 3,844人入館
- 12月 北京市国際教育交流センター・北京市大中中学校国際交流団 21人表敬訪問
第1回北京教育交流訪問団派遣（24日～28日 中・高校生20名、教職員10名）
・訪問先：北京市教育委員会、海淀実験中学校、北京市西城外国語学校
・見学先：天安門広場・故宮博物院、天壇公園、万里の長城、北京動物園等
- 2月 報告会開催



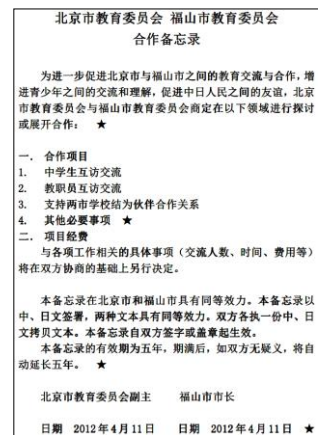
2009年（平成21年）～2011年（平成23年）

- 12月 第2回～第4回北京教育交流訪問団派遣
- 2月 報告会開催



2012年（平成24年）

- 4月 北京市教育委員会何劲松副主任
首都師範大学附属中学金晓莉副校长他1名が市長表敬
福山市教育委員会と北京市教育委員会との教育交流等に関する覚書を再締結
- 12月 第5回北京教育交流訪問団派遣
- 2月 報告会開催



2013年（平成25年）～2016年（平成28年）

- 12月 第6回～第9回北京教育交流訪問団派遣
- 2月 報告会開催

2017年（平成29年）

- 12月 第10回北京教育交流訪問団派遣
福山市教育委員会と中国教育国際交流協会及び渋谷育英会との教育交流に関する協定書に調印
- 2月 報告会開催



2018年（平成30年）、2019年（令和元年）

- 12月 第11回、第12回北京教育交流訪問団派遣
- 2月 報告会開催